

琉球大学学術リポジトリ

琉球諸島の浅海域における口脚類に関する分類学的研究

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-06-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大澤, 正幸 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/651

大澤正幸 (Masayuki Osawa)

琉球大学理学部

口脚類（シャコ類）は甲殻亜門 軟甲綱に所属し、採餌器官である第2顎脚（捕脚）が大きな鎌状になることで他の甲殻亜門の分類群とは容易に区別できる。日本産の口脚類に関する分類学的研究は、駒井（福田）卓博士によって1908年から1938年にかけて精力的になされた。駒井博士の研究以後、国内外の研究者によって、日本産の種に関する修正、新種および新記録種の報告がなされてきたが、小型種に関しては十分な検討が行われていない。また、琉球諸島域では種の多様性が高いと考えられるにもかかわらず、これまでに報告されている口脚類は比較的少ない。

本研究では、琉球諸島の沿岸のサンゴ礁原および浅海より得られた標本の分類学的検討に基づき、これまでに把握されている小型口脚類の生物相について修正をはかった。本研究をとおして、次の種類を確認することができた。和名のない種は、日本新記録である： 沖縄島、久米島、石垣島、黒島、与那国島： サンゴ礁原、潮間帯—亜潮間帯（1–2 m）: *Gonodactylaceus falcatus* (Forscål, 1781) フトユビシャコモドキ、*Gonodactyllelus micronesicus* (Manning, 1971)、*G. snidsvongi* (Naiyanetr, 1987) オキナワフトユビシャコ、*Gonodactylus childi* Manning, 1971 コドモフトユビシャコ、*G. chiragra* (Fabricius, 1781) フトユビシャコ、*G. platysoma* Wood-Mason, 1895 ニセフトユビシャコ、*G. smithii* Pocock, 1893 トンガリフトユビシャコ、*Haptosquilla pulchella* (Miers, 1880) ミツヤマトジオシャコ、*Mesacturus furcicaudatus* (Miers, 1880) トゲオシャコ、*Pullosquilla malayensis* (Manning, 1968)、*Raoulserenea ornata* (Miers, 1880)。 種子島西、平瀬（口之島北）、奄美大島名瀬沖、ナガンヌ島： 47–86 m: *Gonodactyllelus annularis* Erdmann and Manning, 1998、*G. rubriguttatus* Erdmann and Manning, 1998、*G. micronesicus* (Manning, 1971)、*Haptosquilla tuberosa* (Pocock, 1893)。

Mesacturus furcicaudatus は、これまでに Matakaea (Tahiti の北東)、バンダ海 (インドネシア)、北・南大東島から記録されている。本種は、尾節の後縁中央に一对の細長い突起を持ち、この特徴により他の口脚類から一見して区別できる。近年、マリアナ諸島、オーストラリア、南西太平洋域において精力的な口脚類相の研究がなされているが、Komai (1940) が本種を北・南大東島から報告して以来の採集記録はない。今回、久米島、黒島、与那国島の礁池内の死サンゴの樹間より3個体を採集することができた。*M. furcicaudatus* は潮間帯下の間隙の奥に隠れ棲む体長 20 mm ほどの小型種であり、このことが今までの記録を少なくさせている要因かも知れない。

また、八重山諸島黒島の礁池内の死サンゴの樹間からは、これまでの記録が比較的少ない *Gonodactyllelus snidsvongi* も1個体を採集することができた。本種は、日本国内では沖縄島の那覇から *G. hendersoni* (Manning, 1967) として記録されている。検討した標本の尾節背面の棘数は、これまでに報告されている個体のものに比べて明らかに多かった。しかしながらこの形態差は、本標本が大型であるための種内変異と扱った。